

新潟県

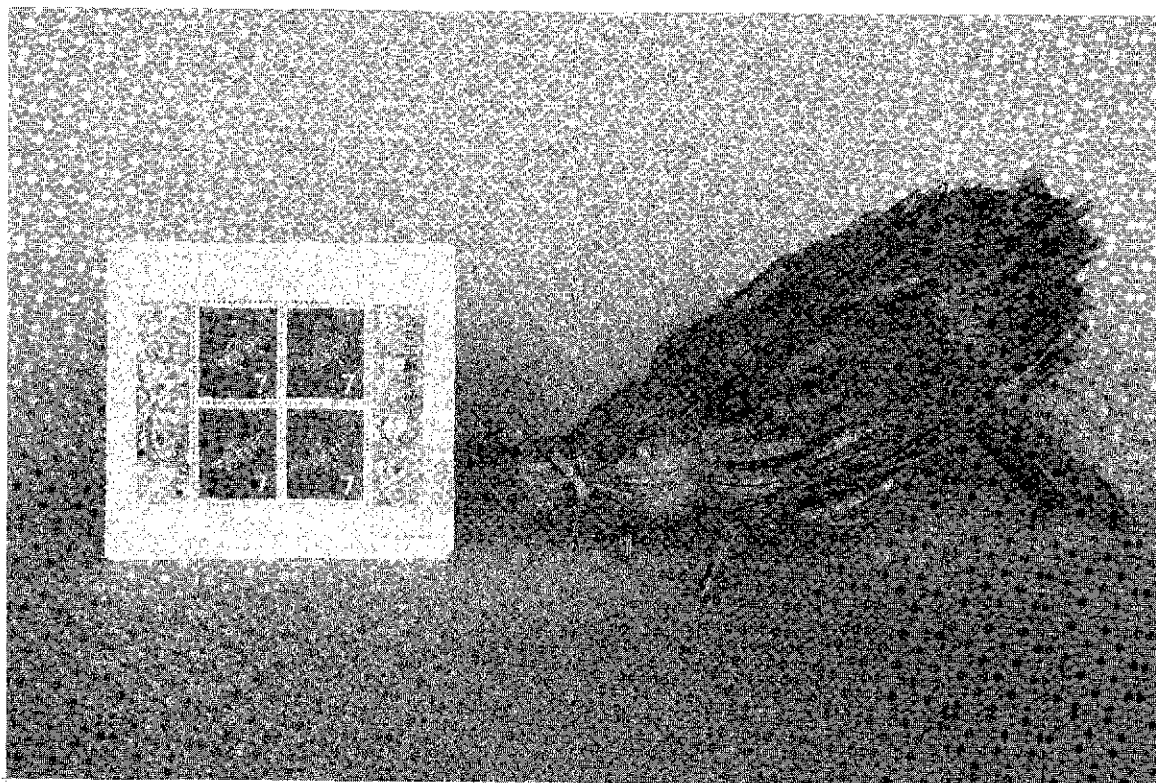
62年

# 公民館月報

12月  
第418号

## 特集 公民館初任者講座6

—図書室に魅力を持たせよう—



### 越後の郷土玩具(三)

亥(いのしし)

新井市平丸(本紙7月号で「すげ馬・すげ牛」を紹介)は、冬になると若者は出稼ぎに行き、留守をあずかる年寄が、炉端を囲み子どもたちに昔話をしながら、占くから伝えられた民具や子どもの玩具を作り、里人にこれを売り、細々ながら暮らしをたてている。

新井市が古くから産業奨励の一策として力を入れた異色の郷土玩具で昭和46年、年賀切手の図案に採用された。

× × × × × × × ×

一月号以来「越後の郷土玩具」を提供していただいた「玩物居あるじ」こと野崎史郎氏は去る8月故人となり、11月号の解説で絶筆となりました。今月号の解説文が未稿なので、息をお引きとりになるまで気にかけていられたと、ご令室に伺いました。氏のご冥福を衷心からお祈りし、今月号をもって「越後の郷土玩具」シリーズを完結することとします。

なお、本号の解説は、新井市中央公民館長のご厚意により資料提供をうけ、編集子が書いたものです。

(上)

# 来年度県公民館大会

## 糸魚川市市民会館で

### 期日は10月20日と決定

### 第2回評議員会開催

11月18日(水)新潟市のニュー越路において、本年度第2回評議員会が開催された。

主な案件は、昭和61年度の歳入歳出決算の承認、昭和63年度に実施予定の第39回県公民



あいさつする志水会長

館大会の基本的な内容についての審議。また、本会の上半期の会務報告や関東申信越勢プロジェクト公連、全国公連の動きなどの報告がなされた。

出席者は30名(欠席4名欠員1名)、来賓に県社会教育課の木村正弘課長補佐、有坂豊裕社会教育主事のお二人をお迎えし、13時定刻に開会した。

はじめに、志水会長があいさつに立ち、第38回県公民館大会の盛会に関する関係者への感謝、公民館職員研修のための研修専門委員諸氏の積極的な企画立案に対する感謝の言葉、また、今年度初の試みとして、県社会教育行政関係者と「社会教育懇談会」(詳細三面)を実施して成果を得たことの紹介をした。続いて、木村課長補佐から、臨教審の答申にふれ、生涯学習体系への移行は今や国民的課題となっていること、本県の進め方について、中央公民館を市町村の生涯学習センターとし、

学習活動の拠点としての重要な役割を担ってほしいこと、さらに、「県公民館大会」の成功、昨年来の「公民館月報」の刷新、新規事業「公民館職員研修」など、県公連の積極的な活動に深い敬意と、今後に大きな期待を寄せている旨の激励のあいさつがあった。

このあと村上市中央公民館長滝波善助氏を議長に選出し、議事に入る。

#### 主要報告事項

- ・昭和62年度会務の中間報告
- ・第38回県公民館大会の収支決算報告
- ・全国 関プロ公連の諸会議並びに公研集会の報告

#### 審議事項

- ・昭和61年度歳入歳出決算の承認事項
- ・収入総額 一、五八四、四三九円
- ・支出総額 一、一七七、七八二円

差引四〇六、六五七円の残金を昭和62年度へ繰越す。なお、9月28日に監事から監査を受けた、代表監事高橋宏氏(燕市中央公民館長)から「関係諸帳簿を精査したところ正確適正であると認められる」と監査報告が述べられ、承認可決された。

・第39回県公民館大会について  
来年は、上越地区公連と主催することとなり、主管は糸魚川市西頸城郡公連が引き受けることになった。日時は、糸魚川市の事情から、10月20日(木)とし、糸魚川市市民会館を会場に、午前10時30分から開会すること、また、参加費は従前どおり一七〇〇円と決定した。

なお、大会主題は「生涯学習社会における公民館の役割」とし、実践発表を主体とした大会にすること、講義の講師や演題等については今後つめることにしている。

大会当日までには、北陸高速道が貫通する筈なので、多数の参加を得られるよう、今から予算等の配慮して下さるよう、事務局では期待していた。

審議事項終了後、会長が司会進行役を務め、意見交換がなされた。その主なものとしては、公民館運営審議委員の役割、任務等について、公民館月報で解説してほしい。

公民館月報の整理用表紙を作成したらどうかといった、県公連事務局への要望が多かった。

### お知らせ

#### 講座や研修会の

講師を紹介します

あなたの公民館で、不動産に関する法律や登記に関する知識について、講座を開設してほしいという要望はありませんか？ また、専門講師を得にくくて困る……といった公民館はありませんか。

戦後の民法の大改正による家督相続の均分化がすすんだり、経済の発展による不動産の商品化がすすむなど、私たちの生活の中で不動産に関する法律などの知識を知る必要が高まっています。

こうした趨勢の中で、新潟県司法書士会では、サービスの 일환として、講座や教室等での種の内容を学習する場合、専門の講師をあつせんする用意があるということですが。

なるべくなら、講座のように四回とか五回のシリーズの学習が望ましいが、一日限りの研修講師でも差支えないそうです。専門の知識を持つ講師を安心して得られます。関心のある方は左に照会してください。

#### 新潟県司法書士会

新潟市古町13番町五一六〇番地

電話(三三三)一三九九

FAX(三三三)一三三〇

# 初の試み 『社会教育懇談会』

去る10月29日(木)新潟市中  
央公民館会議室において、社会  
教育懇談会が実施された。

この会は、本会の当面の問題  
や今後の事業の進め方などにつ  
いて、県の社会教育行政関係者  
から、指導ならびに助言を得る  
べく開かれたもので、本会とし  
ての初の試みであったが、大き  
な成果が得られた。

ちなみに出席者は、県社会教  
育課から、林課長、木村課長補  
佐、鈴木社教主任の三氏を招へ  
い。本会からは、志水会長、藤  
本、近藤、渋谷三副会長が出席。

和やかなうちに、終始積極的  
な意見が交換され、本会のこれ  
からの活動に大きな示唆をう  
け、極めて有意義な懇談会で  
あった。



和やかな懇談会スナップ

## 辛口

本年四月  
に公民館運  
審委員に委  
嘱され、ま  
ず町の社会  
教育計画に  
目をともし  
ました。そ  
こには、町民憲章の前  
章の「豊かな伝統と美  
しい自然に恵まれた、  
これから発展しようと  
する希望の町です。」と  
あります。また、生涯  
教育推進モデル町村の

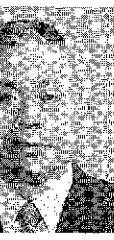
指定を受け、生涯教育  
体制と社会教育活動の  
推進計画が書かれてい  
ます。  
事業の実施にあたっ  
ては、館長を始め関係  
者一同の昼夜を分たぬ  
ご努力に感謝していま  
す。

### 郷土愛を育てる公民館

#### 本間 基之

ています。そのような  
厳しい状況下にあっ  
て、地域に残り、地場産  
業の活性化に取り組ん  
でいる人々がいます。  
そうした人々の郷土愛  
に満ちた行動をだいに  
して行かねばならな  
いと思うからです。

導者を得ることはい  
までもなく大切で  
が、地域住民が如何に  
公民館の事業に関心を  
持ち、進んで参加する  
かが成否の分れ目で、  
人集めに奔走する様  
で残念ながら立派な公  
民館活動がなされてい  
るとはいにくい。地  
域住民が喜んで参加  
し、楽しく生活のでき  
る町づくりを進めるこ  
とこそ、公民館活動に  
課せられた任務である  
と思いますし、住民の  
期待するところであ  
ります。



さて、これからの社  
会教育活動で大切な  
は、「伝統と歴史を重ん  
じ、郷土愛を持つ人」  
を育てることではない  
でしょうか。というの  
は、昨今行政も住民も  
共に努力してもなお  
地方の過疎化は進行し

施設を設け、職員を  
配置し、予算を組み、  
さて活動という時に住  
民がいないのでは大変  
です。公民館の活動が  
今後どのように進むか  
は地域の存亡にかかわ  
ると考えられます。生  
涯教育の活動に良き指  
導者を得ることはい  
までもなく大切で  
が、地域住民が如何に  
公民館の事業に関心を  
持ち、進んで参加する  
かが成否の分れ目で、  
人集めに奔走する様  
で残念ながら立派な公  
民館活動がなされてい  
るとはいにくい。地  
域住民が喜んで参加  
し、楽しく生活のでき  
る町づくりを進めるこ  
とこそ、公民館活動に  
課せられた任務である  
と思いますし、住民の  
期待するところであ  
ります。

(小木町公民館  
運営審議委員長)

このたび、県公民館連合会の  
立場から、県立新潟図書館の図  
書館協議会委員を拝命し、本年  
度第一回目の会議に出席した。  
(会議は年二回開催)  
図書館協議会は、図書館の運  
営について「館長の諮問に必ず  
」点においては公民館の運営  
審議会と同じような任務をもつ  
ている。しかしながら、「公民館  
に運営審議会を置く」  
と必置制となつている  
のに対し、図書館協議  
会では「置くことがで  
きる」となつている点  
が異なつているところ  
である。  
協議会の委員は、  
一、学校の代表者  
二、社会教育関係団  
体の代表者  
三、社会教育委員  
四、公民館運営審議  
会委員  
五、学識経験者  
によつてなつている。県立新潟  
図書館協議会の構成もむろん同  
じで、定数は十名である。  
会議の本題に入ろう。最初に  
新任の目崎図書館長のごあいさ  
つがあり、続いてこれまた新任  
の林県社会教育課長が立たれ  
た。始めてお会いしたのだが、  
お若いのにびっくりする。これ  
までの二年間を文部省にお出で

## 会議日誌 9月21日(月)

### 県立新潟図書館協議会々議

になり、臨時教育審議会の設置  
から第二次答申までのいわゆる  
教育改革の仕事にかかわって  
られた由。本県の生涯教育の推  
進のために、このご経験とバイ  
タリティーを活かしてほしいも  
のと大きな期待をもった。  
次に、説明に移り、県立図書  
館建設の準備状況についての説  
明があった。  
この整備構想は、中  
央の図書館専門家、大  
学教授、学識経験者な  
どからなる委員会でも  
とめられ、すでに新聞  
等にも報せられている  
ところである。情報化  
社会に対応した、聞い  
ただけでも楽しくなる  
ようなアイデアがたく  
さん盛られている由。  
面積では、現在の図書  
館施設の十倍強、併設  
する視聴覚センターを  
含めると約一九、八〇  
〇平方メートルというブ  
ラック  
スな施設となる計画の由。また、  
機能としてはコンピュータシ  
ステムの導入や図書館ネット  
ワークの形成なども検討されて  
いる。着工は昭和六十四年度の  
予定といわれる。だが、かんじん  
の建設場所はまだ決っていない。  
(副会長 渋谷 頼明  
新発田市公民館長)

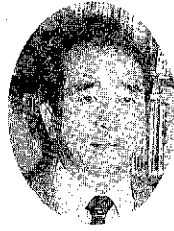
執筆者紹介  
県立新潟図書館普及課長

西山昌策氏

昭和38年から県立新潟図書館  
司書となり、以来専門職として  
従事。

昭和54年に普及課に移り、県  
内市町村の図書館、公民館図書  
室との連携を深め、公民館図書  
室の関係者に知己が多い。

なお、この存には普及課長に  
ご栄転され読書普及に一層力を  
入れられている。



西山氏

# 任者講座6

## の管理と運営

### を持たせよう

#### 一、公民館図書室の役割

最近では、地域住民が日常生活に必要な知識や情報を得るため、公民館図書室を利用するケースが増えてきている。その背景には、情報化社会、高学歴社会、高齢化社会といわれる状況の中で個人が急速に変貌していく社会に適応していくためには、生涯にわたる学習が必要であるということと、一方、科学技術の発達などに伴う余暇の増大やより良い生活の希求等の諸要因があげられる。

当県では、図書館未設置市が6、町村が84の計90市町村である。いわば公民館図書室が唯一の読書施設という状態である。このような状況の中で全県の読書普及を考えると、当県にとって公民館図書室の振興は大きな課題である。

当県の公民館図書室について見ると、規模の大小はあるが次のように分類することができている。一つは、備えることとされている形だけの公民館付属図書室、一つは、公民館事業と平行した機能をもった図書室、そして充実した収集資料をもとに積極的な貸出しを行い公共図書館としての機能を兼ね備えた図書室の三つである。

このように図書室に三つの型

があるように、公民館図書室のとらえ方にも私ども図書館側と公民館とでは双方に大きな違いがある。また、同じ公民館の中でもそれぞれの館の運営方針によって図書室に対するとらえ方が異なり、今日に到ってもまだ図書室の位置付けや役割が明確にされていないようである。

住民の学習要求も高学歴化に伴ってより個別化し、多様化してきている。このように高度でしかも多様な要求に添えていくためには公民館も以前から他の社会教育施設、特に図書館との連携が必要であるといわれてきている。図書館未設置の市町村にとっても当然これら住民の要求に添えていかなければならぬ

いわけで、名称はどうあれ地域住民の図書館として、図書館的な機能を備え整備充実していく責務があるのではないかと思う。

公民館図書室も従来のように各種事業や集団学習のための限られた図書室ではなく、人ひとりの住民の学習要求、生涯学習に添え得るような図書室、図書の出出しを核にしたもっとも開かれた図書室として地域住民とのつながりを深めていく必要がある。また各種事業が開催されている時だけでなく、住民の自由なたまり場、交流の場として

いつでも気軽に利用できる常に文化の薫りただよう施設であってほしいものである。

#### 二、公民館図書室の整備

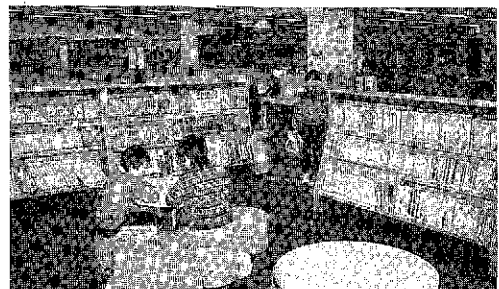
##### 施設

図書室の設置場所は、できれば1階で、玄関に近く、開放的で入りやすくする。

広さは、市町村の人口にもよるが最低100㎡以上とし、さらに最低基準から望ましい基準へと近づけたいものである。書架はすべて開架方式とし、出来れば児童コーナーを設け、閲覧席は20席以上確保したい。

##### 資料

図書館はいうに及ばず公民館図書室であっても、豊富な蔵書、新鮮な本がなければ読書活動は



児童コーナーのある図書室一栃尾市公民館一

推進できない。利用者の興味や読書意欲を阻害する要因は必ずといってよいほど蔵書の不足にあるといわれている。どんな読書普及よりも新鮮な蔵書の充実こそが利用に結びつく最良の方法である。

蔵書構成は、その地域利用状況によっても異なるが、おおむね次の比率で構成するのが標準的である。

一般図書50% (基本参考図書10%、実用、娯楽、教養図書40%)、児童書35%、郷土資料10%、新聞、雑誌5%。

##### 図書費

魅力ある図書室づくりを目指すには、利用されなくなった古い本や傷んだ本は、新しい本、良く利用される本と入れ替えるという蔵書の更新が基本である。

従って、年間の図書受入冊数は蔵書冊数の一割以上とし、蔵書の更新を考慮すると少なくとも千五百冊〜二千冊以上の新刊図書を目標にしたい。

##### 職員

図書室だけの貸出しや読書相談だけでなく、学級、講座、集会、行事等に対する豊富な知識と経験、それを組織化できる専門職員の配置が必要である。資料、職員、施設の三要素のうち、貢献度は資料20%、職員75%、

# 公民館初

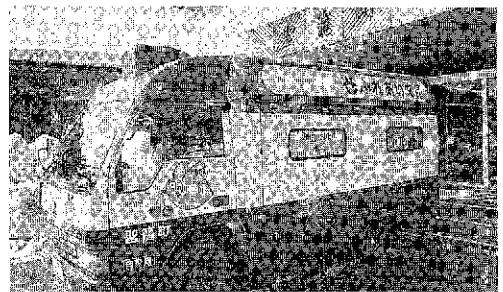
## 公民館図書室

### —図書室に魅力

施設5%といわれるほど職員役割は大い。

このような意味から、専任職員(できれば可書有資格者)名の配置や公民館職員全員が各種の研修などを通して、図書室に関する知識、技術を身につけ、更に有効なボランティアの活用を図っていく必要がある。

以上図書室の整備についてごく簡単に触れたが、お互いに知恵を出し合い、他館とも相互に協力し連携を取り合いながら、魅力ある図書室づくりを心がけ



移動図書館車—聖籠町公民館—

たい。

### 三、読書活動のすすめ方

「人でも多くの人々に、しかも公平に読書活動の機会を提供する」これが読書活動の究極の目的であり原点である。この目的を少しでも達成しようと、これまでもさまざまな読書活動が推進されてきた。

子どもの読書に主眼をおいた鹿兒島県の「親子読書20分間運動」、母親の読書に重点をおいた長野県の「PTA母親文庫」、この二つを折衷して、袋を使って親と子を対象にはじめられたのが新潟県の「家庭文庫」である。

▲上段の解説参照▼  
県内の公民館においても、亀田町の「親子文庫」、浦川原村の

「地域巡回文庫」、豊浦町の「巡回家庭文庫」、中条町の「ステーション文庫」、新井市の「床屋文庫」等、それぞれの地域に合ったユニークな読書活動を行っている。その他にも津南町で今年八月から役場の軽トラックを利用して移動図書室を開設するなど、その他14の市町村が自動車文庫を実施している。特に、十日町市の「こだま号」、聖籠町の「ふれあい文庫号」は、本格的なブックモバイル(移動図書館車)であり活発に運行している。

このように、なんらかの形で積極的に読書活動、読書普及に努めている公民館が多い。しかしながら、各館のこうした地道な努力にもかかわらず効果の点になるとはなはだ疑問があり、必ずしも実効が上がっているとはいえない市町村もあるようである。読書活動を推進していくためには、まず、住民の要求に応えられるだけの魅力ある豊富な図書と、それを運用する専門的職員の配置が最小限度の条件である。

また、条件を満たしたどんなに立派な図書室ができたとしても、それだけでは十分なサービスはできない。図書室に来る人だけを待っているのではなく、もっと積極的な活動をすすめ、住民が、いつでも、だれでも、

どこでも、利用できるように、図書室の機能を持った数多くの拠点(窓口)、サービスポイントを設置しなければならない。

人口の比較的集中している市部においては、本館(中央館)・分館(地区館)、場合によっては人の集まる集会所や診療所などに配本所を設けたり、人口のばらつきのある集落を抱えている農村部においては、本館・自動車文庫(移動図書館車)という機動力のあるサービスが有効である。このように面と点のサービスによって自治体全域を図書館機能ではりめぐらすことで、その地域に合った図書館、図書室システムをまず構築することが大切である。

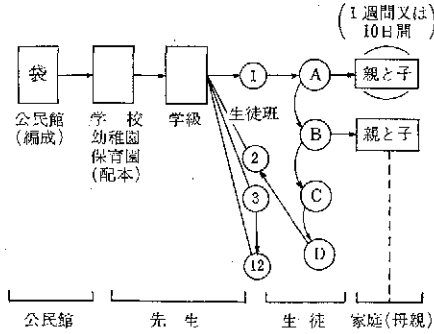
いま「優れた図書館の存在そのものが最も強力な読書運動である」といわれている。

各地でさまざまな読書活動、読書運動が推進されているが、中途半端で不十分なサービスに終わらないように一定の水準を持ったサービスを心がけたいものである。

最後に、中条町公民館の中倉館長さんが公民館初任者講座に書かれた「町民にとっての役場は、行かねばならないから行くところ、公民館は、行きたいから行くところ」を思い出して筆をおく。

### 家庭文庫 —新潟方式—

- ア、まず学校や幼稚園・保育園およびPTAに協力を求める。
- イ、年齢や興味をひかれるもの、地域性など考えて図書を選ぶ。
- ウ、次に、親と子の本をそれぞれ一冊ずつ袋に入れる。
- エ、学校・園を通じて各学級へ12袋24冊を届ける。
- オ、1班3〜4人で編成し、1か月で1袋をまわすようにする。
- カ、毎月1袋を各家庭は、1週間から10日家において読む。
- キ、期日になったら次の家庭に子どもの手でリレーする。
- ク、1か月になったら、学校・園に持ってきて袋を交換する。
- ケ、12袋を毎月36から48家庭が交換しながら1年間で読み終わる。親子併せて1セット12袋が1か月に72人から96人、1年間で864人から1,052人に巡回される。



方法

運営

# 公民館探訪記

## 元気が出る地域づくり大会

# 仕掛人に徹する公民館

## 新井市中央公民館を訪ねて

新井市は人口二万八千人余、頸南地方の中心都市である。だが、新井市もこの地方一円の課題がそうであるように「豪雪と過疎」が地域課題になっている。だから、市行政の各分野でこの課題と取り組んでいるのはいうまでもない。

公民館ではこの地域課題解決への取り組みは、早くから(昭和40年代から)「地域づくり」を中心に据えて、地域住民に働きかけてきた。そして、近年行政主導の「地域づくり」から住民主体のそれに脱皮しつつあるという。

各地域団体の横の連携(連絡協議会)ができて一年目。団体の自主事業として「元気が出る地域づくり大会」が開催されていた。

私が訪れたのは、久しぶりに盛夏が戻ってきた八月四日。会場を「新井市総合文化ホール」に移して「元気が出る地域づくり大会」のイベントが開催されていた。

会場は、閉会式のセレモニーのあと、徳島県阿波町から招いたという講師の基調講演が熱っぽい早めの口調で語られていた。

社会教育の事業において、婦人の参加の多いのは驚ろくには当たらないが、成人男子の参加者の多いのには驚いた。「地域づく

り」とか「地域活動」という自分たちの生活に直結した学習だからなのであろう。

× × × × × × ×

もともと新井市は、昭和40年代のころから、公民館が中心になって、コミュニティをつくる「土壌づくり」に力を入れてきたところである。とりわけ、昭和48年に「水上地区」が、自治省のモデルコミュニティに指定されたことを契機に住民自身の地域活動がすすめられていた。

この住民自身の力による「地域づくり」の活動を全市的に広げたいと願い、昭和57年から行政主導の、つまり公民館が仕掛人となって、38の町内自治会を主とする地域団体に呼びかけ、団体活動がなされるようになった。公民館を地域活動のための学習の場としつつ、地域課題解決に向けて自主的な取り組みをするようになってきた。

ようやく昨61年9月に、これらの団体の横の連携が円滑にいくようにと「新井市地域づくり連絡協議会」が誕生した。そし

て、その第一回目の記念すべきイベントが本日にぎぎしく開催されたのである。

その晴れがましいイベントの展開の蔭で、仕掛人としての中心的な活躍をしていた片所社会教育主事は、「これでようやく一つのレベルは敷かれました。でも、本当に団体が自力で相互の連携を深めていくには、もう少しはらく仕掛人がその立場を離れ

## 「地域活動ってなんだろう」

### —— 地域への愛をもって ——

遅まきながら探訪記事をまとめている矢先、新井市中央公民館から、市の広報誌が届けられた。「地域活動」の特集号である。A4判20ページ的一般行政広報誌だが、すべてが地域活動で編集されている。

その思い切った(公民館報で

るわけにはいかないでしょう。何しろ「必要課題」を自分たちの生活の問題として認識するにはもう少しばかり時間がかかりそうです。この「はつらつフェアー」のようなイベントの連続がどこまで浸透に役立つか……そこには当然のことながら、公民館の学習活動を忘れるわけには行きませんが」と話してくれました。

ない行政広報誌の)大胆さに驚かされるとともに、「地域づくり」への肩の入れようがわかるというもの。

内容には、「地域活動ってなんだろう」に始まり、「住民と地域活動との出会い、喜び、必要性」



「本番はこれからだ」いつも持ちたい地域への「愛」など地域活動に関する内容が住民の誰にも、興味深く楽しめる内容で特集されていた。ますます、新井の「地域づくり」が住民自身のものとして定着するよう祈る。

# 印象に残った 女性職員研修意欲

## 上越地区公連研修会

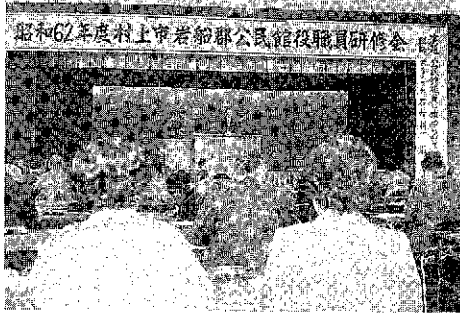
去る11月11・12日の二日間、わたり、上越地区公連主催「上越地区公民館役員研修会」が開催された。

折から紅葉の真盛りの池の平の「妙高山荘」を会場に、上越地区全域から50名の公民館長・職員が参加した。

始めに県公連事務局長による「立身出世主義(学歴社会)は

故郷を否定する

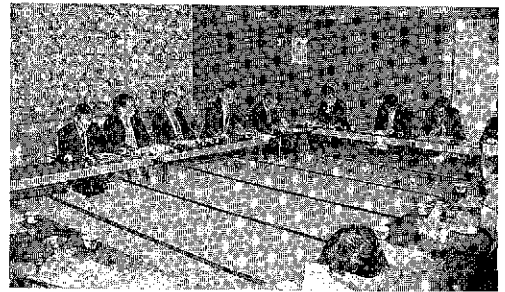
# 情報 広場



昭和62年度村上市岩船郡公民館役員研修会

文化。今や故郷を愛し肯定する(生涯学習社会を形成する)時代を迎えている。公民館はこのためにどうしなければならぬか」という主旨の基調講義がなされ、続いて二分科会に分かれての、実践の相互発表とそれに対する質疑応答がなされた。

分科会の構成メンバーが25人という少人数のせい、アットホームな中にも、真摯な意見交換が続いた。とりわけ、女性職員が本質を突く実践上の問題点を熟心に積極的に発表している姿が印象的であった。



分科会スナップ

# 社会教育の多様化への対応

## 村上市岩船郡公連研修会

11月25日(水)村上市岩船郡公連主催の「公民館役員研修会」が関川村公民館を会場に開催された。当公民館は、天皇陛下の行幸を仰いだ県下唯一のもの。(昭和47年胎内平の植樹祭の折)そのせい、本研修会は格調の高いものであった。

テーマは「社会教育の多様化への対応をどのようにしたらよいか」であり、始めに四人のパネラーによるパネル討議があった。それぞれの立場からの意見は傾聴すべき内容ばかりであった。

だが、とりわけ利用者代表の意見と、フロアーからの発言(利用者の立場の)は期せずして同主旨のもので、つまり、住民の社会教育活動振興の要は、公民館職員の創意と熱意による、地元をよく見てほしい、住民の心を知ってほしい、といっていた。まことに核心をつく声として印象に残った。

午後、元木会長の石井耕一氏による「公民館職員に求めるもの」と題する講演があり、午後三時閉会した。

# 真野町公民館

## 名畑 匡章氏 (28歳)

新採用以来教育委員会勤務。公民館は6年目、公民館事業の全部に関係しているという。

「公民館の仕事で難しさを感じるのとはどんなことですか?」

「何といっても講師探しです。学級・講座の講師を地元からと考えるのですが(はじめの頃)何処にどんな人が居るのかさっぱり分らないのです。やっと探してあてた人の講義内容が



「青年期」という短かい期間に情熱を燃やさせたい……」と語る名畑氏の声にひとときわ熱がこもっていた。(上村記)

# 素顔 拝見

## 上越市立直江津地区公民館

## 竹田 和明氏 (36歳)

福祉課から公民館に来て、丸一年目。身障者の大運動会などのイベントは公民館事業と似た部分もあり、あまり違和感はなかったとおっしゃる。

「前の仕事と較べて違うところはどんなところですか?」

「イベント事業を実施する時は、一人ひとりがパートを受けもちながらも全体は、全員(五人六人)で協力してやっていたので安心感がありました。公民館では、いつも自分一人なんです不安につきまとわれています。

「慣れるしかありません。それと、地域の人々に溶けこむことだと思っています。」とまだ一年しか経験がないのに確信ある答えが返ってきた。



今、手がけていることは、「親子ふれあい活動」だという。仕事を楽しんでしようがないような張りのある声が響く。思わず「頑張れ!!」と声援を送りたい気持ちにさせられた。(上村記)

# 県事業紹介

## 県立青少年研修センター

「青少年指導者グループワーク研修」

期日 昭和63年1月28日(月)～30日(水)

会場 県立青少年研修センター

講師 南山短期大学人間関係科 教授 星野 欣生 先生

参加対象者 市町村青少年教育担当者、小・中・高等学校等教員、専修学校等教員、福祉施設、企業等の研修担当者。

内容 集団育成をより効果的に進めるため、グループワーク、トレーニングの基礎的な理論と実践

経費 三、六〇〇円

## 新潟県少年自然の家

「わんぱく集まれ！」  
「真冬に鍛える集い」

県少年自然の家では、小学校5・6年生を対象に「真冬に鍛える集い」を行います。

期日 △第一回▽昭和63年1月30日(土)～31日(日) 一泊二日

△第二回▽昭和63年2月6日(土)～7日(日) 一泊二日

会場 新潟県青少年自然の家

内容 リーダーシップトレーニング、レクリエーション、歩くスキー、どんと焼等

対象 小学校5・6年生 一回目二回目とも18人

経費 一人 二、七〇〇円

(食費三食分、シーツクリーニング代、バス代、写真代、

活動費等) 問い合わせ 電話〇二五四一四六

## 新潟県視聴覚ライブラリー

優秀映画鑑賞会へどうぞ!!

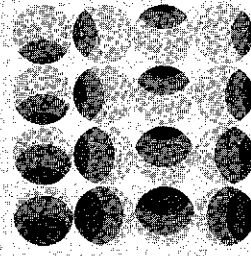
県ライブラリーでは、当館所有の評判の良いフィルムを選んで、毎月一回「優秀映画鑑賞」を行っています。

1月9日(土) 午後1時30分から県立新潟図書館・視聴覚室に於て、次の二作品を上映いたします。(入場無料)

◎「日本スキー教程・初級編」

## 良書紹介

公民館運営一問一答集



公民館の管理と運営に関する  
一〇〇の質問に答える関係者待望の書!

佐々木実著 第一法規

かつて文部省の専門職員として、公民館の運営指導に当たられた佐々木実氏が「公民館運営一問一答集」を出版しています。

「こんなときは……」「こんな場合は……」と、公民館関係者が直面する公民館の管理運営上の疑問について、一問一答の形で百の質問にわかりやすく答えています。

目次を紹介すると、  
第一章 公民館への期待  
第二章 公民館の行方  
第三章 公民館の行方  
第四章 公民館の行方  
第五章 公民館施設の管理運営  
第六章 公民館職員の仕事  
第七章 公民館運営審議会  
第八章 公民館と関係機関との関係  
と内容は盛りたくさんです。

(A5判二八八頁、定価一、九〇〇円お申込みは送料三〇〇円を添えて県公理事務局へ)

一 二八〇四  
締切期日 昭和63年1月9日

あとがき

◇新年号から、表紙絵を「県人作家シリーズ」としてお送りします。

県立美術博物館のご厚意により、同館所蔵の本県出身作家の作品を紹介いたします。日本画・洋画・彫刻等が主となりましょう。解説は、同館の学芸員諸氏にお願ひしています。

◇今年の新規事業として期待された「公民館職員研修」が終了しました。ヘッドスケジュールにもかわららず受講者一同熱心に研修しました。感想文には言

◎「実践スキー」カラー18分  
中級者の滑り方  
カレンデがあなたを待っています。まず映画によるイメージトレーニングはいかがでしょう。かきつと素晴らしい効果が期待できます。

次回上映は2月13日です。

発行所 新潟県公民館連合会

【新潟市川端町2-9・県林業会館内】  
【電話・新潟 (025) 224-6073】

発行人 会長 志水 亘

編集人 事務局長 上村 捨二郎  
【定価1部 120円 年共 1,440円】